

平成29年度(2017年度)の取組み

北摂7市3町で「北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定」を締結



平成30年(2018年)2月18日(日)万博記念公園総合案内所前広場にて、北摂7市3町とその地域にある食品スーパー9事業者で、レジ袋の無料配布中止等を趣旨とする「北摂地域におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定」を締結しました。同年6月1日(金)から順次実施しています。



子ども服リユースイベントを開催しました!

豊中市内のこども園等に回収ボックスを設置し、子ども達が着なくなった、まだ使える子ども服を集めて、必要な人に無料で提供する子ども服リユースイベントを行いました。



平成29年度(2017年度)は6月18日(日)クリーンランド展望フロア解放デー、10月29日(日)クリーンランドフェスティバル、11月11日(土)市民環境展にて開催し、延べ1,037人の方が来場し、計6,637着の子ども服が新しい家族のもとへ旅立っていきました。

水銀使用廃製品等の拠点回収を開始しました

平成29年(2017年)7月から、市内4箇所(平成30年(2018年)4月からは8箇所)に専用回収ボックスを設置し、水銀を使用した蛍光灯、体温計、血圧計、温度計及び電池類の回収を開始しました。



事業系一般廃棄物減量計画書の提出事業所の拡大

事業系一般廃棄物減量の推進のため、「事業系一般廃棄物減量計画の届出等に関する規則第3条」の規定を、「一般廃棄物が月5トン以上排出」から「一般廃棄物が月3トン以上排出」と一部改正を行い、当該減量計画書の提出義務のある事業者の拡大を図り事業ごみの減量に取り組んでいます。



庄内駅西側周辺が路上喫煙禁止区域に指定されました。

「豊中市路上喫煙の防止に関する条例」に基づき、平成29年(2017年)12月11日(月)から、阪急庄内駅西側周辺が路上喫煙禁止区域に指定されました。禁止区域では、たばこを吸うことや火の付いたたばこを持つことが禁止になっています。なお、禁止区域を周知するため、平成29年(2017年)12月11日(月)から12月15日(金)の期間に「庄内駅周辺路上喫煙禁止区域 駅頭PRキャンペーン」を実施しました。



生ごみの「3切り運動」を実践しよう!

使い切

買い物に行く前には冷蔵庫の中の賞味・消費期限、在庫をチェックして同じものを買わない、買い過ぎないようにしよう。



食べ切

料理を作る時は食べ切れる分だけ作り、余った食材は冷凍・冷蔵保存するなどして早めに食べるか、アレンジして別メニューを考えよう。また、外食時には適量を注文しよう。「残さず食べよう!30・10運動」を実践しよう。会食・宴会時には乾杯後30分間は席を立たずに料理を楽しみ、お開き前の10分間は自席に戻って再度料理を楽しもう。

水切

生ごみの約80%は水分です。どうしても使い切り・食べ切りが出来なくて捨てなければならない時は、水切りをしよう。



『ごみ分別アプリ』さんあ〜

地域のごみ収集日がカレンダー形式で表示されたり、アラームで収集日をお知らせする機能もあります!着々とユーザー数が増えています。

ユーザー数 約9,000人



さんあ〜る



android用



iphone用

フレフレ げん 平成30年(2018年)7月

2020ごみ減量プラン

平成30年12月12日
第2回審議会
参考資料1-2

(第3次豊中市ごみ減量計画)

平成29年度(2017年度)事業評価報告書 概要版



【2020ごみ減量プラン(第3次豊中市ごみ減量計画)の概要】

○当初計画期間
平成24年度(2012年)から平成32年度(2020年)

2020ごみ減量プラン事業評価報告書は、当プランの年度ごとの進捗状況をまとめたもので、ごみ減量事業の現状をみなさまにわかりやすく紹介するとともに、今後の事業展開に活かすことを目的としています。

豊中市のごみの減量目標は



平成32年度のごみの量(再生資源を除く)を平成21年度と比較して

基本理念は



協働とパートナーシップに基づき「もったいない」のこころでつくる循環型社会

基本施策は



○発生抑制を優先した循環型社会の構築
○家庭系・事業系のごみ減量の取組み

『第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画』
及び
『第4次豊中市ごみ減量計画』
を策定しました

新たな減量目標

ごみの焼却処理量を平成39年度(2027年度)には平成28年度(2016年度)実績より8%削減

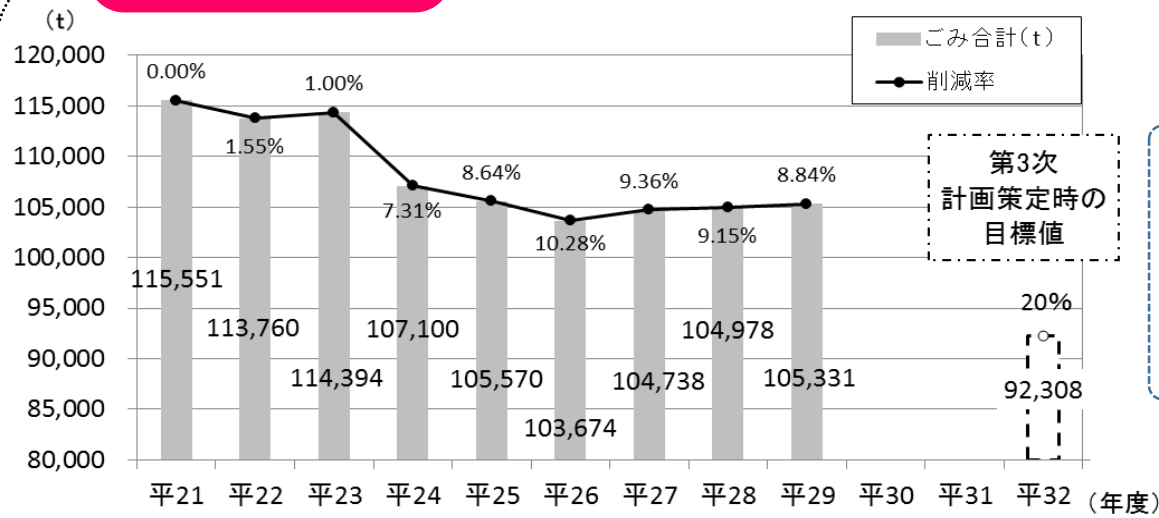
平成28年度
約104千t/年



平成39年度
約95千t/年

平成29年度(2017年度)のごみ減量の進捗状況

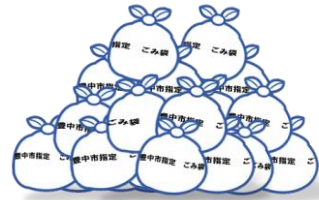
ごみの量



第3次
計画策定時の
目標値

要因分析
「ごみの量」は、平成28年度(2016年度)と比較して微増傾向となっています。これは事業活動に伴って排出されたごみの増加によるものと推察されます。

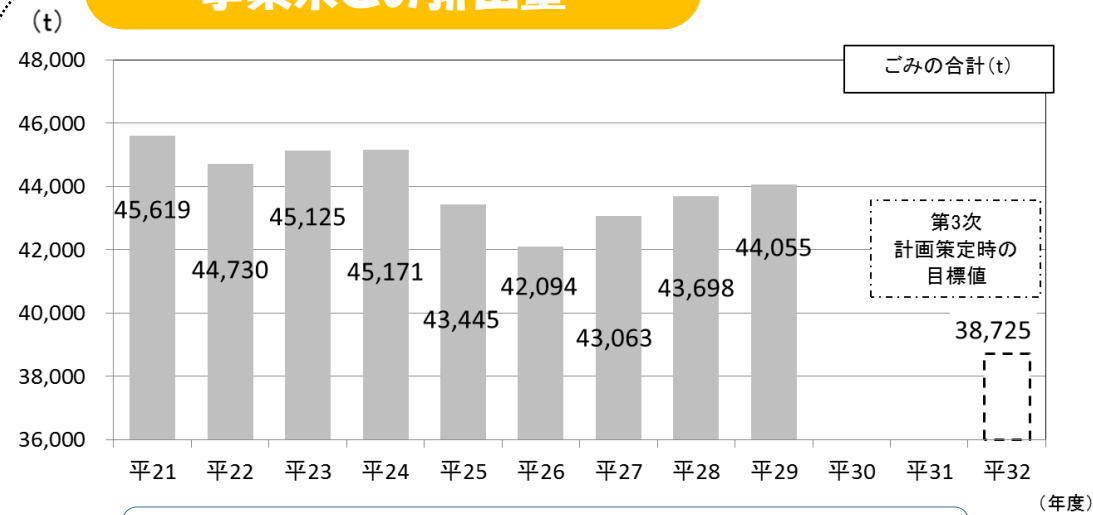
- ごみの量・・・資源化されず焼却・破砕される量、焼却処理量 + スリーR・センターでの破砕等処理量
- 削減率・・・平成21年度のごみの量を基準とした年度ごとの比率



平成28年度 104,978トン → 平成29年度 105,331トン



事業系ごみ排出量



要因分析と評価

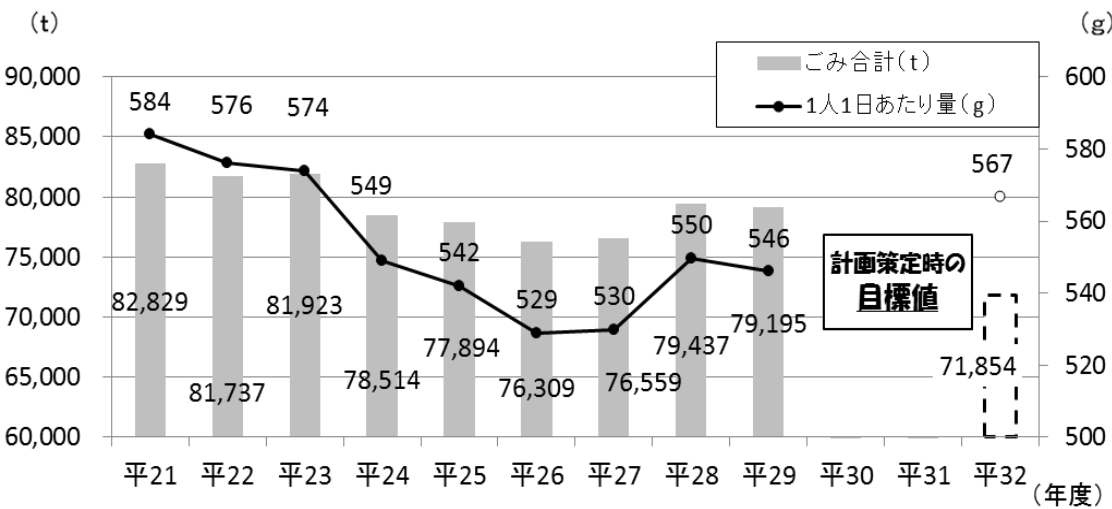
「事業系ごみ排出量」の増加については、近年、福祉施設の増加やサービス小売業等からの排出量が微増傾向にあることが主な要因と推察されます。事業系ごみに多く含まれる紙類の再資源化に向け、雑がみの分別排出を事業者へ促す必要があります。また、ごみ処理施設での搬入物検査をさらに強化するなど事業ごみの減量に向け取り組みます。



平成28年度 43,698トン → 平成29年度 44,055トン



家庭系ごみ排出量・市民1人1日あたりの量



要因分析と評価

「家庭系ごみ排出量及び市民1人1日あたりの量」の減少については、プラスチック製容器包装や新聞の回収量が減少したことが主な要因です。市民のご協力もあり、1人1日あたりの量は目標を達成していますが、人口が微増傾向にあるため、家庭系ごみ排出量は微減に留まっています。そのため、今後もごみの減量に向けて取り組む必要があります。

- 家庭系ごみ排出量・・・豊中市伊丹市クリーンランドへの家庭系ごみ搬入量+集団回収量
- ※平成32年度以外は各年度の実人口を使用して算出、平成32年度は計画策定時の想定人口(約34.7万人)での算出

年間ごみ排出量

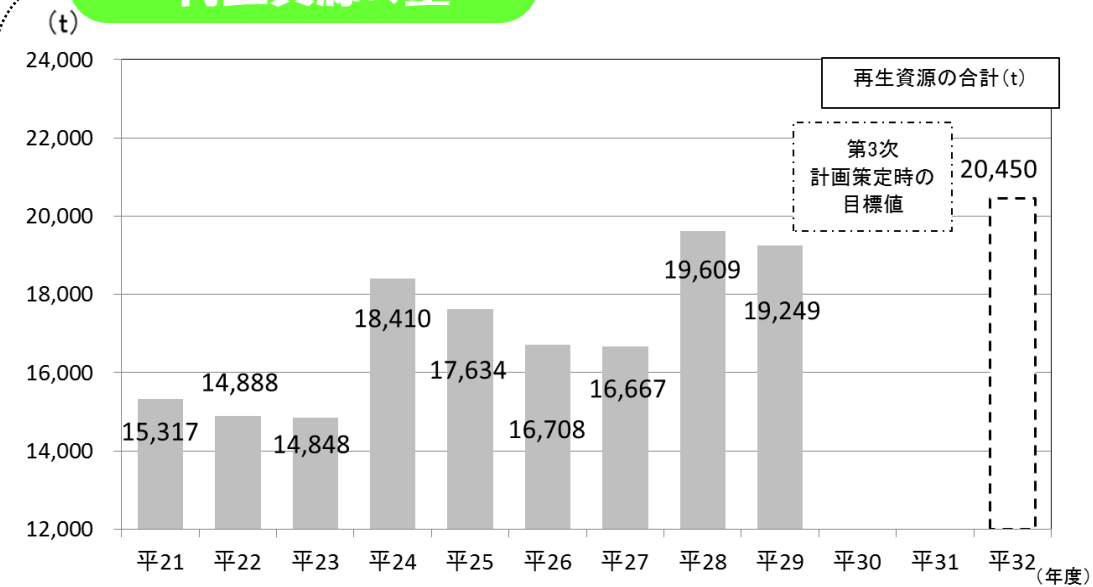
平成28年度 79,437トン → 平成29年度 79,195トン

市民1日あたりの量

平成28年度 550グラム → 平成29年度 546グラム



再生資源の量



要因分析と評価

「再生資源の量」の減少については、プラスチック製容器包装、紙類の回収量の減少及び集団回収の品目のうち、新聞の回収量の低迷等によって減少していることが主な要因です。今後も分別排出の徹底に向けたさらなる周知活動が必要です。また、集団回収については、今後も新規登録団体獲得に向け、未取組みの自治会・管理組合やその他の地域団体等に対し、積極的な制度PRを行う必要があります。



平成28年度 19,609トン → 平成29年度 19,249トン

